

2015年度の実績・2016年度の目標

特に記載のある場合を除いて、対象はアンリツ(株)および国内グループ会社です。

達成度 …… ○：達成 △：達成率50%以上 ×：未達成

達成像	重要課題	2015年度目標	2015年度実績	達成度	2016年度目標
【達成像1】 安全・安心で 快適な社会 構築への貢献	お客さまへの サービス	【アンリツ】 ①VOC (Voice of Customer) 収集の現状・課題 の整理 ②顧客データベースの連携策立案 ③CS推進体制の再編	【アンリツ】 ①お客さま対応窓口の現状分析、窓口部門と関係部門の連携 強化、保守のグローバル対応品質強化 ②CRMシステムの活用促進 ③グローバルなCS推進体制の検討着手	○ ○ △	【アンリツ】 ①お客さま対応窓口の強化 ②CRMシステムの強化 ③グローバル評価方法の検討
		【アンリツインフィビス】 ①リモート保守サービス ②グローバル保守体制の構築の計画策定 ③セミナー開催	【アンリツインフィビス】 ①リモートアクセス機能を使用した保守サービスの検証実験 ②グローバル保守構想の素案の作成 ③総セミナー回数(本社、訪問、他社企画)62件	○ △ △	【アンリツインフィビス】 ①リモート保守サービス検証実験完了 ②米国コールセンターの開設 ③ウェブベースセミナーのコンテンツ開発完了
	企業ブランドの 確立	【アンリツ】 ①各事業体におけるブランド戦略の構築 ②社内教育プログラム策定 ③ブランド浸透 ④グローバルウェブによるブランドマネジメント の構築	【アンリツ】 ①各事業体におけるブランド戦略の構築：ブランドの浸透活動 ②社内教育プログラム策定：新入社員教育、新任幹部職教育 実施 ③120周年記念プログラムによるブランド浸透および社内外向 の広報活動で浸透 ④グローバルウェブのブランドマネジメント構築 New Global ウェブの公開。ブランドマネジメントを構築し展開	○ ○ ○ ○	【アンリツ】 ①各事業体におけるブランド戦略の継続。ブランドステートメ ントの浸透と浸透度の把握 ②社内教育プログラムの継続 ③通常の展示会、広報活動でブランド浸透を継続 ④グローバルウェブによるブランドマネジメントの継続
		【アンリツインフィビス】 ①ブランド戦略の策定・浸透 ②採用活動の強化	【アンリツインフィビス】 ①ブランド強化タスクフォースを発足、しくみ作りの推進 ②国内採用HPのリニューアル完了	○ ○	【アンリツインフィビス】 ①Anritsu Invis プラントガイドラインの策定・浸透 ②ブランド思想を反映したコミュニケーションの推進
社会的課題への 積極的対応	【アンリツ】 「CSR課題」の共有：課題担当部門とのワーキン ググループ編成。 ・リスクマネジメント (BCP) ・人権デューデリジェンス ・不正取引防止 (贈収賄など)	【アンリツ】 ・リスクマネジメント (BCP) については2017年度活動とした。 ・実施部門の活動はCSR報告で記事掲載 ・人権デューデリジェンス：「英国現代奴隷法」対応のWG活 動で計画立案。「英国現代奴隷法」対応は2016年9月までに 実施予定	△ ○ ○	【アンリツ】 ・リスクマネジメント (BCP) について2017年度に活動 ・実施部門の活動はCSR報告で記事掲載予定 ・人権デューデリジェンス：「英国現代奴隷法」のステート メント公開・関係規程・ガイドライン改訂は2016年9月まで に実施	
【達成像2】 グローバル 経済社会 との調和	コンプライアンス の定着	【アンリツ】 ①グローバルコンプライアンス教育の実施 ②贈収賄防止コンプライアンスプログラムの構築 ③海外地域統括会社とのコンプライアンス関係 業務の連携 ④国内グループ会社とのコンプライアンス関係業 務の連携 1) 最低年1回は国内グループ会社担当者で面 談し、ニーズの把握 2) ニーズに基づき、研修などの実施による支援 (5回以上) 研修などの実施による支援(5回以上)	【アンリツ】 ①グローバルコンプライアンス教育の実施 ・対象者数1,438人(国内757人、海外681人)⇒全員が受講完了 ②贈収賄防止コンプライアンスプログラムの構築 ③海外地域統括会社とのコンプライアンス関係業務の連携 ④国内グループ会社とのコンプライアンス関係業務の連携 ・年3回の企業倫理推進委員会での国内グループ会社のコン プライアンス推進状況の把握のほか、研修は、年4回実施	○ ○ ○ △	【アンリツ】 ①グローバルコンプライアンス教育の実施 ・贈収賄防止関係WBT(Web Based Training) 教育の実 施(継続) ②贈収賄防止コンプライアンスプログラムの構築(継続) ③海外地域統括会社とのコンプライアンス関係業務の連携 1) グローバルコンプライアンス体制の改善 2) 海外地域統括会社のリスク評価、改善活動の状況を共 有(継続) ④国内グループ会社とのコンプライアンス関係業務の連携 ・新WBTツールを使った教育コンテンツ作成による効果的 なコンプライアンス教育の実施
		リスクマネジメントの 推進 (情報セキュ リティ)	【アンリツ】 ①グローバルセキュリティ管理体制の構築 ②セキュリティ教育 ③情報管理内部監査継続 ④ISMS認証継続	【アンリツ】 ①ポリシーの策定は完了 ②新入社員、CSR月間で、WBT・標的型メールの演習・セキュ リティの講演を実施 ③情報管理内部監査を7月に実施 ④ISMSの外部監査を12月に実施	○ ○ ○ ○
	リスクマネジ メントの推進 (内部統制)	【アンリツ】 経営ビジョン、経営方針を背景に自社にとつての “重要事項”を定義し、それに付帯する各リスクを 全社的リスク(企業リスク)として認知する。現実化 の可能性、影響度の観点からリスクを順位付 けし、おののの重要度合いに沿ったリスク管理 を実施する リスク分析に基づく監査を通じて、事業活動を支 援するとともに、新たなリスクを検出する取り組 みに着手する	【アンリツ】 グループ各社の経営基盤強化を図るべく以下1.～3. に掲げ る業務領域での内部統制システムの強化を推進した。 1. 国内子会社：棚卸管理(在庫リスク) 下請管理(コンプライアンスリスク) 2. 欧州子会社：代理店管理(コンプライアンスリスク) 3. アジア子会社：棚卸管理(在庫リスク) 財務管理(財務リスク)	○	【アンリツ】 ビジネスプロセス全体領域を対象に、部門横断的なリスク マネジメントを推進する。関係ビジネスユニット、関係地域が全 体リスクを共有したうえで個々にリスク管理指標を設けてリ スクコントロールを実践するしくみを整える 監査などによるそれらの実効性評価を踏まえ、ビジネスユ ニットごと、地域ごとのリスク管理状況を可視化する方策に 着手する
		【アンリツインフィビス】 グローバル・リスク管理の強化 ①リスク管理のガイドラインの運用・定着 ②グローバルな内部統制環境整備	【アンリツインフィビス】 ①-1 AI-GBG(アンリツインフィビスグローバル・ビジネス・ガ イドライン)の運用と定着 ①-2 グローバルな内部統制環境の強化 ・海外現地法人の内部統制のしくみを整備	○ ○	【アンリツインフィビス】 グローバル・リスク管理の強化 ①AI-GBGのアップデート ②グローバルな内部統制環境整備
	サプライチェ ーンマネジ メント	【アンリツ】 ①CSR調達戦略策定 ②直面するリスクへの対応 ③BCP体制の強化 ④国内グループ契約書の一括管理 ⑤内部統制の運用強化	【アンリツ】 ①-1 CSR調達ガイドライン：紛争鉱物対応を追加改版し、 アンリツホームページに掲載完了 ①-2 CSRアンケート実施：101社中94社回収済。(回収率 93%) 前回比6ポイント改善(前回87%)。平均得点4.08 点(5点満点中)、おおむね良好。(前回4.06点) ①-3 資材調達の重点監視リスクおよび対応策立案、イントラ 掲載済。リスク監視継続中 ②アジア地域のCSRリスクについて香港IPOにて常時監視実 施済	○ ○ ○ ○	【アンリツ】 ①CSRガイドラインへ英国現代奴隷法対応を追加する。情報 交換会などの機会を活用し取引先さまへ周知啓発を実施 ②未実施取引先さまへのCSRアンケートを計画。アンケート 結果の活用方法を検討 ③海外調達先拡大に伴うリスク抽出と対応策立案実行 ④グローバルなCSR調達リスク監視体制の構築

達成像	重要課題	2015年度目標	2015年度実績	達成度	2016年度目標
【達成像2】 グローバル 経済社会 との調和	サプライチェーン マネジメント	【アンリツインフィビス】 ①グローバル生産体制の構築 ②カントリーリスク対策	【アンリツインフィビス】 ①グローバルなローカル生産体制の基盤整備 ②カントリーリスク対策・本社：大規模災害など	○ ○	【アンリツインフィビス】 ①グローバル生産体制の構築 ・2020年グローバル生産の全体像明確化、BCP対策
	人権の尊重と多 様性の推進 人財育成	【アンリツ】 ①採用の多様化推進(外国籍、中途) ②人財育成体系の構築 ③新たな評価・処遇制度の導入と定着 ④社員の多様化に応える働き方の見直し	【アンリツ】 ①採用の多様化推進 ・人財像の明確化と採用基準の見直し ・海外・中途採用の強化 ・アンリツブランドの定着・強化 ②人財育成体系の構築 ・教育研修体系の見直し ・ローテーションポリシーの構築 ・GEEPの再開 ③新たな評価・処遇制度の導入と定着 ・制度導入に向けた労使協議を継続 ④社員の多様化に応える働き方の見直し ・コアタイム変更による朝型勤務の奨励など ・障がい者1名採用	○ △ ○ △	【アンリツ】 ①採用の多様化推進(外国籍、中途) ・チャンネル拡大計画の立案・実行(国籍・性別・新卒・中途) ・アジア採用国、地域の拡大 ②人財育成体系の構築 ③新たな評価・処遇制度の導入と定着 ④社員の多様化に応える働き方の見直し
	グローバル 経済社会 との調和	【アンリツインフィビス】 グローバルな人財活用 グローバル採用の推進と研修・教育制度の充実	【アンリツインフィビス】 外国籍社員4名採用 グローバルビジネス研修の実施	○	【アンリツインフィビス】 グローバルな人財活用 グローバル海外要員人財育成・報酬体系などのしよみの 改善
	労働安全衛生	【アンリツ】 ①社員の健康保持と増進 ②本社サイトPHASE Iの継続実行、PHASE II (マスタープラン)の策定 ③グローバルBCPの構築	【アンリツ】 ①社員の健康保持と増進 ・国内の定期健診項目の統一完了 ・ストレスチェックトライアルの継続と本格運用の概要決定 ・健康経営推進に向けた検討の実施 ②グローバル本社棟完成に伴う消防計画の全面的な見直し ③グループ会社を交え今後の進め方を検討	○ △ ○	【アンリツ】 ①社員の健康保持と増進 ・ストレスチェックトライアル本格運用 ②グローバルBCPの構築
	社会貢献活動 の推進	【アンリツ】 ①各グローバル拠点における社会貢献活動の 推進と活動の公開 ②東日本大震災復興支援計画の継続と推進。 社内ボランティアの展開	【アンリツ】 ①各グローバル拠点における社会貢献活動の推進と活動の公開 ②東日本大震災復興支援計画継続と推進。社内ボランティアの 展開 ⇒セーブ・ザ・チルドレンと地元NPOとの協働で子ども支援 行事を8回実施	○ ○	【アンリツ】 ①各グローバル拠点における活動を継続しCSR報告に掲載 ②東日本大震災復興支援計画継続と推進。社内ボランティ アの拡大と継続
【達成像3】 地球環境保護 の推進	環境経営の 推進	廃棄物削減・リサイクル ①産業廃棄物の排出量を2013年度実績の58t 以下に維持する(厚木地区+平塚地区) ②産業廃棄物の排出量を2013年度実績の9t 以下に維持する(東北地区) ③一般廃棄物(厚木市への搬出分)の排出量を 38t以下に削減する(厚木地区) ④ゼロエミッションの維持(国内アンリツグループ) ⑤埋め立て廃棄物の排出量を2014年度実績以 下に維持する(USA)	廃棄物削減・リサイクル ①木くずの排出量増加に伴い、是正措置を実施した後、年度の 途中で目標値を62tに変更した。この目標値は達成できた。: 61.4t ②産業廃棄物の排出量を2013年度実績の9t以下に維持する (東北地区):7.9t ③一般廃棄物(厚木市への搬出分)の排出量を38t以下に維 持する(厚木地区):27.7t ④ゼロエミッションの維持(国内アンリツグループ)100%リサイ クル ⑤8.5%削減(USA)	× ○ ○ ○ ○	①産業廃棄物の排出量を2013年度実績の58t以下に維持 する(厚木地区+平塚地区) ②産業廃棄物の排出量を2013年度実績の9t以下に維持する (東北地区) ③一般廃棄物(厚木市への搬出分)の排出量を33t以下に 維持する(厚木地区) ④ゼロエミッションの維持(国内アンリツグループ) ⑤埋め立て廃棄物の排出量を2015年度実績以下(USA)
		省エネルギー ①エネルギー使用量(原油換算)を2014年度 比1%以上削減する (グローバルアンリツグループ) ②エネルギー使用量(原油換算)を2013年度 比1.99%以上削減する (国内アンリツグループ) ※エネルギー使用量にかかわる外乱要因(外気 温・延べ床面積・稼働時間・就業日数など) の補正を行って管理する ③売上高単位エネルギー使用量:2014年度 の目標値(0.020kWh/S)と同様(USA)	省エネルギー ①3.8%増加 ②7.19%削減 ③生産工程増と高温の影響により未達(USA)	× ○ ×	省エネルギー ①エネルギー使用量(原油換算)を2014年度比2017年度ま で毎年1%削減する。2016年度は2014年度比2%以上削 減する(グローバルアンリツグループ) ②エネルギー使用量(原油換算)を2013年度比2020年度ま で毎年1%削減する。2016年度は2013年度比2.97%以 上削減する(国内アンリツグループ) ※エネルギー使用量にかかわる外乱要因(外気温・延べ床 面積・稼働時間・就業日数など)の補正を行って管理する ③2015年度比6%減(USA)
		水使用量の削減 ①水の使用量を2014年度比1%以上削減する (グローバルアンリツグループ)	水使用量の削減 ①水の使用量を2014年度比1%削減する。(グローバルアンリ ツグループ):12.8%削減	○	水使用量の削減 ①水の使用量を2014年度比2017年度まで毎年1%削減す る。2016年度は2014年度比2%以上削減する(グローバ ルアンリツグループ)
		排水管理 ①無機系排水の自主管理基準超過ゼロを維持 する(厚木地区)	排水管理 ①無機系排水の自主管理基準超過ゼロを維持する(厚木 地区):自主基準値超過ゼロ	○	排水管理 ①無機系排水の自主管理基準超過ゼロを維持する(厚木 地区)
		エコプロダクツ(国内アンリツグループ) ①対象製品のすべてを環境配慮型製品にする ②対象製品のすべてを省資源10%以上の製品 にする ③対象製品のすべてを消費電力改善率30%以 上の製品にする	エコプロダクツ(国内アンリツグループ) ①対象製品のすべてを環境配慮型製品にする対象品の100% ②対象製品のすべてを省資源10%以上の製品にする:対象品 の100% ③対象製品のすべてを消費電力改善率30%以上の製品にする: 対象の100%	○ ○ ○	エコプロダクツ(国内アンリツグループ) ①対象製品のすべてを環境配慮型製品にする ②対象製品のすべてを省資源10%以上の製品にする ③対象製品のすべてを消費電力改善率30%以上の製品に する
【達成像4】 コミュニケーションの推進	ステークホル ダーとのコミュ ニケーション	【アンリツ】 ①各ステークホルダーとのコミュニケーションを 社内の関係部門が実施している。外部に公表 している ②投資家とのコミュニケーションのための「統合 報告書」ができています。「統合報告」をグロー バルに展開している	【アンリツ】 ①ステークホルダーとのコミュニケーションを外部に公表 ②投資家とのコミュニケーションのための「統合報告書」ができて いる。「統合報告」をグローバルに展開している。 ⇒統合報告書として「アンリツレポート」を発行。英語版の 発行、海外ウェブサイト公開	○ ○	【アンリツ】 ①グローバルのステークホルダ(特に顧客、サプライチェーン) とのコミュニケーションとCSR報告などで公開 ②「アンリツレポート:統合報告」の発行の継続。外部評価 による指摘事項(ビジネスモデル、トピックス、重点項目) の改善

・USAとはAnritsu Company(米国)、UKとはAnritsu EMEA Ltd.(英国)、中国とはAnritsu Company Ltd.(中国)を表します。